

教育いちかわ

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

子どもの姿 自分や他人を大切に、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

家庭・学校 地域の姿 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する

市川の教育の姿 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-0023
市川市南八幡1-17-15
TEL 334-1111
■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

福祉教育の推進 東国分中学校ブロック

—国分地区社会福祉協議会主催「ふれあいの集い」に東国分中学校の生徒が参加—

平成27年度より3年間、東国分中学校、国分小学校、曾谷小学校、稲越小学校、国分高校の5校が千葉県より福祉教育推進校として指定を受け、国分地区、曾谷地区の社会福祉協議会と連携しながら様々な活動に取り組んでいます。福祉教育推進校の指定は「地域づくり」を基本理念に、これからの社会の担い手である子供たちとその育ちを支える地域の大人たちが福祉教育を通して互いに学びを深めていくことを目的としています。10月10日(月)にはブロック全体で「地域ふれあい音楽祭」を開催する等、合同での取組の他、5校がそれぞれ独自の取組も行っています。

10月23日(日)には、東国分中学校の生徒が国分地区社会福祉協議会主催「ふれあいの集い」に参加しました。

「ふれあいの集い」は地域の高齢者の方が歌や踊りを楽しむ集いです。当日は会場設営を手伝うとともに、「東国分中学校絶対目立ち隊」として有志11名の生徒が揃いのTシャツを着て、日本体育大学の応援「エッサッサ」、ラグビーニュージーランド代表が試合前に行う「ハカ」のパフォーマンスを披露しました。

国分地区社会福祉協議会の橋本氏は「素晴らしいの一言です。若い方のパフォーマンスに地域の皆さんも大変喜んでいました。生徒の皆さん、校長先生に感謝の気持でいっぱいです」とおっしゃっていました。参加した生徒からも「地域のためになればという気持ちでやりました」「見てくださった高齢者の皆さんが元気になってくだされば嬉しいです」との感想があり、「地域のために」という気持ちが伝わってきました。

自らも「ハカ」のパフォーマンスに参加された東国分中学校の高井校長は、「今は高齢者の方と接する機会が少ないので、今日のようなふれあいを通して生徒の思いやりの心を育むこと

持でいっばいです」とおっしゃっていました。参加した生徒からも「地域のためになればという気持ちでやりました」「見てくださった高齢者の皆さんが元気になってくだされば嬉しいです」との感想があり、「地域のために」という気持ちが伝わってきました。

自らも「ハカ」のパフォーマンスに参加された東国分中学校の高井校長は、「今は高齢者の方と接する機会が少ないので、今日のようなふれあいを通して生徒の思いやりの心を育むこと

学力・学習状況調査 市川市の分析結果
小・中学校ともに「おおむね良好である」
全国学力・学習状況調査が、小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語と算数・数学の2教科で実施されました。

学力状況の調査については、国語AとB、算数・数学AとBの正答率を全国と比較すると、市川市の小・中学生はともに同等かそれを上回る結果となりました(表1)。すべての調査で全国と同等以上になったのは、平成26年度の調査以来2年振りとなります。しかしながら、各教科とも、複数の資料や文書に関連付けて考えたり、適切な根拠に基づい

(表1)

	市川市	千葉県	全国
小6 国語A	74	73	73
小6 国語B	59	58	58
中3 国語A	77	76	76
中3 国語B	68	67	67
小6 算数A	78	77	78
小6 算数B	48	47	47
中3 数学A	63	60	62
中3 数学B	45	43	44

平成28年度全国学力・学習状況調査教科区別調査結果(平均正答率)
A:主に知識に関する問題
B:主に活用に関する問題



ができればと考えています」とおっしゃっていました。地域に根ざした福祉教育の取組は、今後も続きます。【教育センター】

て説明したりすることに課題があります。質問紙調査の結果からは、市川市の子供たちは、全国平均に比べ「ニュースを見ている」とする回答が多く、社会への関心の高さがうかがえます。しかしながら、「新聞を読んでいる」への回答は、少しずつ減少しています。調査結果の分析からは、新聞を読む子供たちほど正答率が高いという結果が出ており、その影響を注視する必要があります。

学習習慣に関する項目の中では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」や「家で、学校の授業の復習をしている」が低い結果となっており、家庭学習の充実が課題であることがわかります。

また、「主体的・協働的な学習によく取り組んだ」と回答した子供たちほど正答率が高い傾向が見られます。教育委員会においても、子供たちが主体となる学習の推進にいつそう取り組んでまいります。

さらに詳しい分析は、市川市教育委員会のWebサイトに掲載してありますので、ご覧ください。【指導課】

コラム 国の制度改革と市川教育5

学校現場における業務の適正化と市川市の取組

○業務の適正化に向けた国の動き

2013年に実施されたOECD(経済協力開発機構)による「国際教員指導環境調査」(TALIS2013 表1参照)で、日本の教員は世界一忙しいことが明らかとなりました。以前から教員の多忙化は問題視されていましたが、学校現場の教育課題が年々複雑困難化していく

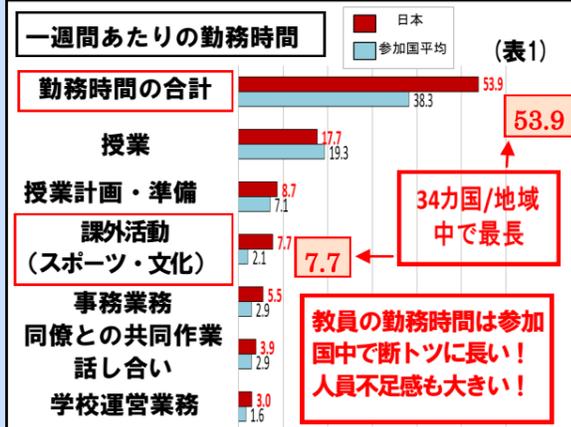
中、国や地方自治体による思い切った改善策がないまま、現場の先生方の努力に頼ってきたことが、このような結果を招いたものと認識しています。

文部科学省では、こうした教員の長時間労働の状況を打開するため、省内に「次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のためのタスクフォース」(以下、TF)を設けて検討を行い、本年6月に報告書をまとめました。(TF報告の主な概要)

○市川市の取組

市川市では、これまでも教員の多忙化解消に向けた検討を行ってまいりましたが、このTF報告を受け、本年9月に「ノー残業デー・ノー部活タイム」の設定に関する通知を市内全ての小中学校等に発出しました。通知の内容は、毎週水曜日を「ノー残業デー」、毎週月曜日の朝と水曜日の放課後を「ノー部活タイム」とするもので、本年10月から試行し、来年4月から本格施行することとしています。

平成32年度から順次全面実施される予定となっている学習指導要領の改訂を控え、来年度以降、研修や教材研究等の準備が本格化することが予想されますが、現在の多忙化の状況では、それらに十分な時間を確保することは困難です。TF報告で示された思い切った改革なしに、これ以上、教員の努力に頼ることは限界であると考えています。市川市としては、国の動きも注視しながら、引き続き、教員の多忙化解消に取り組んでまいります。【教育次長】



1. 教員の担うべき業務に専念できる環境を確保する
◇教員の行う業務の明確化(事務職員の職務内容の見直しや業務アシスタントの検討など)
◇給食費等徴収管理業務からの解放
2. 部活動の負担を大胆に軽減する
◇休養日の設定状況を把握し改善を徹底
◇小中学校体育連盟等の大会規定の見直し
◇部活動指導員の制度化・配置促進
3. 長時間という働き方を改善する
◇勤務時間管理の適正化 ◇教員の意識改革
4. 国・教育委員会の支援体制を強化する
◇文科省内に「学校環境改善対策室」を設置、業務改善アドバイザーを配置し自治体等に派遣



教育委員交流会

教育委員会では、子供たちや保護者、教職員の意向を把握し、基本計画の策定及び改定に反映させるため、教育委員と子供たちや保護者、教職員との交流会を行っています。今年度は、9月から2月にかけて15校で実施します。

第一中 9/9 平田(信)委員が、国府台高校教諭による中学1年生社会科の授業を参観されました。その後の教職員との交流会では、中高の連携・交流の教育効果や今後の中高連携教育の在り方について思いを語られました。



高谷中 9/16 平田(信)・平田(史)委員が、生徒会の生徒と学校の現状について話し合われました。活発な意見交流の後、学校をよりよくする取組については、「地域との交流を大切に、生徒全員が夢の持てる学校づくりをさらに進めてください」と助言されました。

塩原小 9/21 五十嵐委員・鈴木委員が、業間休みに、ボランティアの児童による塩焼幼稚園児への読み聞かせ交流を参観されました。児童が、工夫して読み聞かせする様子に感心され、「地域全体での本を通してのよい循環を今後も継続してほしい」と感想を述べられました。



百谷小 9/29 平田(信)委員が、1年生とゆりのこ学級の授業を参観されました。その後、1年1組で給食交流を行い、子供たちと楽しく歓談されました。また、学校長と家庭教育の重要性についても話し合われました。

第四中 10/7 田中教育長・平田(信)委員が、学習発表会の3年生の合唱を聴き、その後、実行委員長や教職員と意見交換されました。教育長からは、「素晴らしい歌声・マナー・団結力に感動しました。今回学んだことを今後に活かして欲しい」とお話がありました。

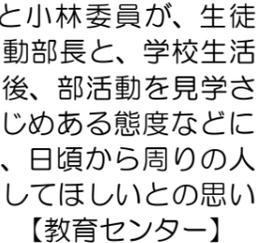


曾谷小 10/13 松下教育次長・平田(信)委員が、5年生の道徳授業に参加されました。「江戸しぐさ」を参考にした、みんなが気持ちよく生活するためのしぐさについて、活発な交流や思いやりあふれる意見にお二人とも感心されました。

幸小 10/20 松下教育次長・平田(信)委員が、5年生の道徳の授業を参観されました。「のぼそう!!よりよいあいさつの力」をテーマとし、クラス発信で全校にどのように挨拶を広めていくかという話し合い活動に参加され、子供たちと活発に意見交換されました。



第七中 10/27 五十嵐委員と小林委員が、生徒会役員や部活動部長と、学校生活について話し合われ、その後、部活動を見学されました。挨拶や礼儀、けじめある態度などに感心され、学校生活の中で、日頃から周りの人への感謝の気持ちを大切にしてほしいとの思いを語られました。



鈴木みゆき氏が今年度より教育委員に就任されました。保育学・睡眠学がご専門の鈴木委員は、現在、和洋女子大学教授としてご活躍されています。教育委員就任にあたり、抱負を伺いました。



「子供たちが生活リズムを整え、賢く元気に機嫌よく日々の生活を送れるよう、また、教育と文化の街・伝統ある市川で、学ぶことが楽しいと思える教育を展開できるよう、微力ながら頑張ります」と明るく笑顔で語られました。
【教育センター】

新教育委員紹介

地域の子供たちのために「学校支援コーディネーター」活躍中!

学校支援コーディネーター

学校教育活動の支援(以下学校支援)のため、学校と地域支援者のつなぎ役を務めるのが「学校支援コーディネーター(以下CN)」です。この取組は、平成25年度に20校に配置したことから始まり、今年度は45校に配置し、52名のCNが活躍しています。今回は曾谷小学校の取組について紹介します。



落葉清掃(秋の毎週水曜日実施)

「曾谷地区ボランティアの会」

CNの新福氏は、障がい児のための放課後デイサービス「寺小屋ミニデイサービス」を運営し、自治会でも活躍され、地域に豊富な人脈を持つ方です。頻りに曾谷小学校を訪れ、先生方の要望を上手に引き出しているCNです。前期の活動がひと段落した10月中旬、新福氏は、地域のボランティアを集め、懇談会を企画しました。曾谷地域にあるレストランにて、16名の方々が、食事を楽しみながら、曾谷小学校の児童のこと、曾谷地域のことなどを語り合いました。

皆さん、曾谷小学校への支援に関してとても熱心です。8名ずつ2つのテーブルに分かれ、様々な活動に対してお互いにアイデアを出し合っていました。今年度『曾谷地区ボランティアの会』を立ち上げました。学校を核に、地域住民が協力・連携することで、さらに地域の活性化につなげたいそうです。

新福氏は、「子供たちのために『できることをできる人で!』頑張りたい」と話されました。



真打・川柳つくしさん(曾谷小出身) 4年生落語教室

このように、地域活性化の視点を持ったCNが学校と連携し、様々な活動を展開しています。皆さんの地域の取組について知りたい、地域ボランティアとして参加したいという方は、社会教育課(047-383-9386)までお問い合わせください。

【社会教育課】

ボランティア懇親会



中学生海外派遣事業

今年で25回目となった中学生の海外派遣事業を7月22日(金)から8月5日(金)まで実施しました。平成15年より派遣先をドイツ・ローゼンハイム市に変更し、翌年の16年から相互の生徒交流が始まりました。

昨年よりドイツと日本で「環境、食文化、エネルギー」というテーマを設定し、両国の生徒が事前に学習して派遣に臨むこととなり

ました。派遣前に実施している研修では、グループを作り、このテーマの中から、さらに内容を絞り込み、パワーポイントによる発表の準備を進めました。学校も学年も違う生徒が集まり、研修の序盤では緊張していましたが、回数を重ねる度に成長し、団結していく様子が伺えました。

現地の学校では、事前研修で学習した内容をグループ毎に英語で発表し、その後、それ

ぞれ工夫を凝らして日本の紹介も行いました。

この海外派遣を機に、国際理解を深めた生徒は、在学する学校などで派遣発表会を行うなど積極的に活動しています。また、この体験を小学校でも報告する機会が増え、国際理解を広げる取組が確実に進んでいます。

【指導課】



学校図書館活用

IASL東京大会 ~ようこそ市川市へ~

国を越えての学び合い

8月22日(月)から26日(金)まで東京・明治大学において、「2016国際学校図書館協会東京大会」が開催されました。

24日(水)には、第七中学校と生涯学習センターに43名の方が視察にいられました。その中には、アメリカ、シンガポール、ジャマイカ、南アフリカ、カザフスタン、中国、フィリピンなど世界の様々な国から17名の方もいらっしゃいました。学校図書館について学びを深める時間となりました。



第七中学校の視察

第七中学校の視察では、「全校で取り組む学校図書館活用」について、今まで取り組んできた研究の成果を見ていただきました。中学生の皆さんの爽やかな挨拶の出迎え、手作りのメダルのお土産など、きめ細かな心遣いに視察された方々は感動されていました。



生涯学習センター

生涯学習センターでは、施設の見学をしながら、市川市が目指している「生きる力・夢や希望を育む市川市の学校図書館」に近づくために、学校図書館、公共図書館、行政が一つの組織として取り組んでいることについてご理解いただきました。



【教育センター】

各学校の学校司書・司書教諭の手作りポスターでのおもてなし

大洲幼稚園交流

10月11日(火)に大洲幼稚園の子供たちは、近くのデイサービスセンターに向き、高齢者の方々とふれあいのひと時を過ごしました。



子供たちは高齢者の方々と一緒に歌を唄い、運動会で踊ったお遊戯(ソーラン節)を、「鳴子」で応援していただき元気な踊りを披露しました。子供たちからは「前だよ」「後ろだよ」と掛け声が聞こえる頼もしい姿も見られました。交流を通して高齢者の方々は子供たちから元気を

もらい、子供たちは高齢者の方々から優しさをもらえる素敵な場でした。

最後に子供たちが、自分たちで考えた手作りの「メダル」をプレゼントすると、サプライズとして、幼稚園の行事に使えるように、色とりどりの手作りのくす玉や粘土で作った大きな、お誕生日ケーキを頂き、とても嬉しそうでした。帰りには一人一人丁寧に握手をすることにより、優しさや感謝の気持ちを味わうことができたことでしょう。【就学支援課】



健康教育講演会

8月19日(金)に「平成28年度健康教育講演会」をグリーンスタジオで開催しました。

今年度は、講師にプロトレーナーの木場克己氏をお招きしました。

木場氏は、セリエAで活躍する長友選手やリオオリンピックで活躍した水泳の池江璃花子選手等、多くのアスリートのトレーナーをされている方で、体幹トレーニングの指導を中心に全国を飛び回っていらっしゃいます。

講演では、『「KOBA式体幹★バランス~コバトレ」によって小さいうちからロコモ(運動器症候群)予防』をテーマに、実技や映像も織り交ぜながら体幹を鍛えることの大切さや毎日簡単にできる取組の紹介等をしていただきました。あっという間の90分間で



参加者にも大好評で、「実際にやって実感できたので、姿勢の大切さ等が大変よくわかりました」「姿勢を正すことで集中力も高まるのが、なるほど!と思いました」「体幹を鍛えることが、健康や体力向上・運動能力向上につながるのわかりました」「2学期からの体育の授業等で活用していきます」等、学校でもすぐに活かしている内容が詰まっていた。

子供たちの健康作りへの活用はもちろんですが、大人のロコモ予防を意識する良い機会となりました。

【保健体育課】

目指せ! 未来のノーベル賞

市川市児童生徒科学展

9月10日(土)、11日(日)、市川市児童生徒科学展が、今年も千葉県立現代産業科学館で開催され、2日間で4400名を超えるたくさんの方々にご来場いただきました。

各学校から選ばれた出展作品は、科学論文362点、標本86点、科学工夫作品117点で、合わせて565点にのぼりました。そして、そのうち64点が、みごと入賞しました。

どの作品からも、子供たちの科学する心

や、楽しみながら工夫する姿、自然に対する深い愛情などが感じられ、素晴らしい作品展となりました。

さらに、入賞作品のうち31点は、10月15日(土)、16日(日)に千葉県総合教育センターで行われた県の科学作品展に出展されました。県の科学作品展でも、市内から7点が入賞し、工夫作品の部で中山小学校が学校賞に輝くなど素晴らしい成果を収めました。

今年、東京工業大学の岡田良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞し、日本人のノーベル賞受賞は3年連続となりました。日本の科学研究における独創性は、世界の注目

を集めています。

今回作品を出展した皆さんの中からも、将来大隅先生に続く研究者が出るかもしれません。科学する心や、自然を探究する心に一層磨きをかけ、豊かな発想で挑戦する人になってくれることを期待しています。

なお、**入賞作品**は、市川市のWebページに掲載してあります。ぜひ一度ご覧ください。

【指導課】



米っ人クラブ

今年もがんばりました!
 稲作体験事業「米っ人クラブ」は、農業・教員経験者等で構成されている「市川米っ人クラブ」に業務を委託し、平成13年から小川再生親子ふれあい農園内の親子水田で行われている事業です。
 本事業は、水田耕作と農作業を通じて自然や人とのふれあい、勤労と収穫の喜びを体験し、心豊かな子供たちを育てることを目的とし、「田起こし」「田植え」「案山子作り」「稲刈り」

5月7日(土)「田植え」

「じゃがいも・さつまいも掘り」等の様々な作業を、年間を通して14回程度実施しています。更に、農園内の環境や生態系を学ぶため、「昆虫教室」等の野外学習を作業前に実施する活動日もあります。
 参加した子供や保護者の感想文には、お米作りを通じた自然とのふれあいや、作物への感謝の気持ち、収穫までにかかわった多くの方々への感謝の気持ちなどが綴られています。また、教科書を読むだけでは学習できないことを親子で学ばせてもらったという声が寄せられています。【青少年育成課】



9月3日(土)「稲刈り」

様々な体験を通して ~青少年リーダーへ~

市川市教育委員会では、地域での活躍が期待されている青少年リーダーの育成を目的に、市川子ども会育成会連絡協議会と共催で様々な講習会を実施しています。

小学校5・6年生を対象とした「わんぱくセミナー」は、あそびや野外活動を中心に集団行動・生活の基本を身につけるための初級講座です。



チャレンジランキング

中学生対象の「ジュニアリーダー講習会」は、グループワーク・野外活動を中心にリーダーシップ力を向上させるための中級

講座です。高校生対象の「ヤングカルチャースクール」は、小・中学生と共に活動する中で、リーダーとしての心構えを学ぶと同時に指導技術に磨きをかける上級講座です。

いずれの講習会も、5・6月に開講し、半年の間に5回から7回のカリキュラムが組まれ、キャンプを始めとする貴重な体験を通じて知識や技術を身につけると共に、たくさんの仲間作りができる場となっています。

【青少年育成課】

2泊3日のキャンプの中・高校生



水郷小見川少年自然の家

講師募集

★小・中学校の講師募集★

市川市教育委員会では、市内の公立小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校に勤務できる講師等を随時募集しています。

- 募集職種
 - 県費講師：産前産後休暇等の代替
 - 市費補助教員：教科指導のサポート及び学級担任等の補助
- 応募資格
 - 希望校種または担当教科の教員免許状を所有する方
 - 地方公務員法第16条の欠格条項及び学校教育法第9条の欠格事由に該当しない方
 - 教職に必要な見識と熱意を持った、心身ともに健康な方
- 応募方法

*義務教育課・教職員班へ電話でご連絡ください。
TEL 047-383-9261
- その他

*採用につきましては、欠員が生じた場合に登録者の中から再度面接の上決定します。
 *登録後、すぐに採用されるものではありません。【義務教育課】



この「教育いちかわ」はWebサイトでもご覧いただけます。「教育いちかわ」で検索、または市川市教育委員会のWebサイトからアクセスしてください。(「教育いちかわ」のバックナンバーも掲載しています。)

家庭教育学級

指導員派遣講座

10月6日(木)に平田小学校家庭教育学級にて、家庭教育指導員による「指導員派遣講座」が行われました。講座のテーマは「子供の自立を育むお小遣いの使い方・渡し方」です。講座を担当したのは、高橋道夫家庭教育指導員です。

講座の前半では、子供を取り巻く環境の変化について、お小遣いの使い方についての具体的な例、自立につながるお小遣いの渡し方についての講話がありました。後半は、参加者がグループになってお小遣いについて話し合う座談会を行いました。グループでは、お小遣いについての情報交換や、悩みの相談など熱心に話し合っていました。話し合いを進めている間も、高橋家庭教育指導員がそれぞれのグループを回って話を聞きながらアドバイスをしていました。最後にグループの代表者が発表を行い、グループで話し合った内容について発表しました。「子供が本当にほしいものは何か、親として知らなかったので、子供の話を聞いていきたい」という感想もありました。参加された皆さんのまとめのメモには「お小遣い帳をつける」「お金を貯めることも大事だが使う

ことも大事」など講座でわかったことがたくさん書かれており、この講座を通してもっと子供と一緒に考えていこうとする姿勢が見られました。

家庭教育学級では、各学級の自主企画講座に加えて、「指導員派遣講座」を行っています。「指導員派遣講座」は家庭教育指導員による講座で、家庭教育に関する内容の講話を行ったり、参加された保護者の皆様が子育てについて話し合うことのできる内容のプログラムを行ったりするなど、保護者の皆様のご要望にお答えする講座となっています。平田小学校で行った「お小遣いに関する講座」の他にも、「子供を伸ばす言葉かけ」「マイナス言葉をプラス言葉に」「子供の心を育てるために」「わが子に伝えたいこと」などの家庭教育に関するテーマの講座を行っています。【社会教育課】



市川市立小・中・特別支援学校「学校評議員候補者」募集

学校教育に関心があり、学校運営について提言や助言をいただける学校評議員候補者を募集します。

各学校より公募による学校評議員の推薦依頼が教育委員会に寄せられた場合に限り、候補者(登録者)をその学校に紹介することとなります。

- ◆出願資格 学校教育に関心のある方で、成人であれば年齢職業不問
- ◆募集人員 若干名
- ◆登録手続き 履歴書及びレポートの提出
- ◆募集期間 12月9日(金)まで



詳しいことは、下記にお問い合わせください。

義務教育課・教職員班 TEL 047-383-9261 【義務教育課】

子供にかかわる相談は、ここでできます!

◆教育相談(教育センター)

予約TEL 047-320-3336 火~土(午前9時~午後5時)

対象: 3歳~中学校3年生

様々な悩みに関して専門的知識を持つ教育相談員が面接相談をしています。



◆ほっとホット訪問相談(教育センター)

TEL 047-320-3362 火~金(午後12時30分~午後5時)

対象: 小学校1年生~中学校3年生

不登校や子育てについての相談を電話でお受けしています。自宅等に出向いてお話を伺うこともできます。

◆少年相談(少年センター)

TEL 047-320-3340

月~金(午前9時~午後5時 ※木は午後7時)

メールアドレス youngnet@city.ichikawa.chiba.jp

対象: 小学校1年生~20歳未満

家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談(電話、メール相談あり)を受け付けています。

本人の相談も可能です。

【教育センター】